

年頭のごあいさつ

—2020年—

次の100年を見据え 新しい時代の足利市を築く

年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年10月の台風第19号により、亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被害にあわれた皆様に対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。また、市議会をはじめ、国・県などの関係機関や多くの市民、民間団体、そして、市内外からのボランティアの方々のご献身的なご支援に深く感謝申し上げます。被災された方々の一日も早い生活再建に向け、引き続き全力で災害復興に取り組んでまいります。

今回の記録的豪雨では、中小河川が溢れ、浸水想定区域になつていない地域で被害が発生しました。早急にハザードマップを見直すとともに、避難情報などがしつかり市民に伝わる仕組みや避難所のあり方などの対策を講じます。

本年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大



足利市長 和泉 聡

会が開催され、首都圏から多くの観光客を呼び込む絶好のチャンスと捉えています。本市の誇る豊かな歴史と文化、そして『おもてなし』のこころで本市を全国にアピールしていきたいと考えています。

産業振興としては、『あがた駅南産業団地』に業界をリードする企業を誘致することができました。さらに現在、その北に新たに『(仮称)あがた駅北産業団地』の開発を計画しています。

本市は来年、市制100周年を迎えます。先人が築いた歴史、文化そして伝統を礎に次の100年先を見据えた新しい時代の足利市を築くため、本年も誠心誠意、市政発展のため全力を尽くします。宜しくお願いたします。

市民と行政と議会が 『協働』する足利市へ

新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年10月の台風第19号による豪雨災害により亡くなられた尊い命に謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、ご遺族の皆様からのお悔やみ申し上げます。被害に遭われました皆様にも、心からお見舞い申し上げます。また、さまざまな形でご支援をいただきました皆様には厚くお礼を申し上げます。

市議会では、大災害時における議会の役割や対応をまとめた『災害時BCP(業務継続計画)』を平成30年に策定したところでした。今回初めて、この計画に基づき、行政と連携して復旧にあたりました。被災者の生活再建をさらに加速させるための要望書を発生間もなく行政に対し提出し、その取り組みを後押ししたうえで、臨時議会で補正予算を議決するなど、復興に全力を傾けてまいりました。

私たちは、市民生活の安全安



足利市議会議長 柳 収一郎

心を守り、希望に溢れるまちづくりに取り組む一方で、『市民に開かれた議会』を目指して、広報広聴機能の充実に力を尽くしてまいりました。昨年も、次世代を担う若者たちの市政に対する意欲・関心を高め、その声を反映させるべく、市内8校で『中学生への出前授業』を開催したところです。

昨年5月、皆様の信任を得てスタートいたしました第25期足利市議会が、この間活動に精励できましたことに、改めて心からお礼申し上げます。今後も、諸課題をしつかりと見極めつつ、未来に向けたよりよいまちづくりに邁進してまいります。

本年が、皆様にとりまして多く実りのある一年となります。よう心からお祈り申し上げます。

新たに1件指定！ 市の重要文化財

文化課・☎202230

次の1件を新たに市の文化財に指定しました。これにより市内の指定文化財は、国36件、県96件、市312件、計444件となりました。

梁田義民碑 1基

分類：歴史資料

所在地：覚性院(島田町)境内



梁田義民碑には、明治2(1869)年に起きた『梁田義民』の事件の経緯が記されています。

事件のあらましは、凶作により年貢減免を求めた村人の強訴を諭し鎮めた村の有力者たちが、誤って首謀者として逮捕され、劣悪な環境下の獄内で相次いで病死したというものです。

この碑は、明治43(1910)年に、事件にかかわった10名の慰霊と殉難義民としての顕彰のために建立したものです。

明治初期の激動期に起きた悲劇を今に伝える貴重な歴史資料であり、現在では毎年5月に覚性院にて慰霊祭が行われています。

優しく、しなやかなまちに

至誠
通天

市長コラム
No.073



和泉 聡

最近、『銀河鉄道の夜』など、宮沢賢治のいくつかの作品を読み返し、昨年刊行された人物伝も読みました。『雨ニモマケズ』を全文、繰り返し声に出して暗唱しながら、改めて賢治が目指した生き方に思いを馳せました。

(前略)慾ハナク、決シテ瞋ラズ、イツモシツカニワラッテキル(中略)ミンナニデクノボートヨバレ、ホメラレモセス、クニモサレズ、サウイフモノニ、ワタシハナリタイ

賢治が目指したものの、それは、いつも心を静かに保ち、つつましくやかに、自分の役割を淡々と果たすこと。そして、『人のために生きる』という強い自己犠牲の精神でした。

毎年のように日本列島を襲う水害。携帯電話やインターネットを通じて、目まぐるしくニュースやデータが溢れる情報化社会。業績や生産性の向上、

経済成長や成果が常に問われる緊張感：今の社会に生きる私たちは、いつも忙しく追い立てられ、疲れ苛立っていて、神経や気持ち、とげとげしくなっているのではないか。私にはそう思えてなりません。

怒って大きな声をあげるよりも、静かに落ち着いて微笑んでいたい。他人の責任を声高に追及するよりも、静かに『自分のほうこそ、至らないところがあったのではないかと』と、振り返りたい。人のあらを探すよりも、人の良いところを見つけて誉めたい。人にあれこれ要求するよりも、自分で何ができるかをまずは考えたい。

令和のスタートは、わがまちにとっても台風第19号があり、どちらかというと、厳しいものになりました。しかし、こういう時だからこそ、人へのいたわりと、自分自身を静かに振り返る気持ちを忘れない。そんな優しく、しなやかなまちになるよう、今年もみなさんと一緒に、まちづくりに励みたい。よろしくお願ひ申し上げます。